

第5章

校区社会福祉協議会活動計画



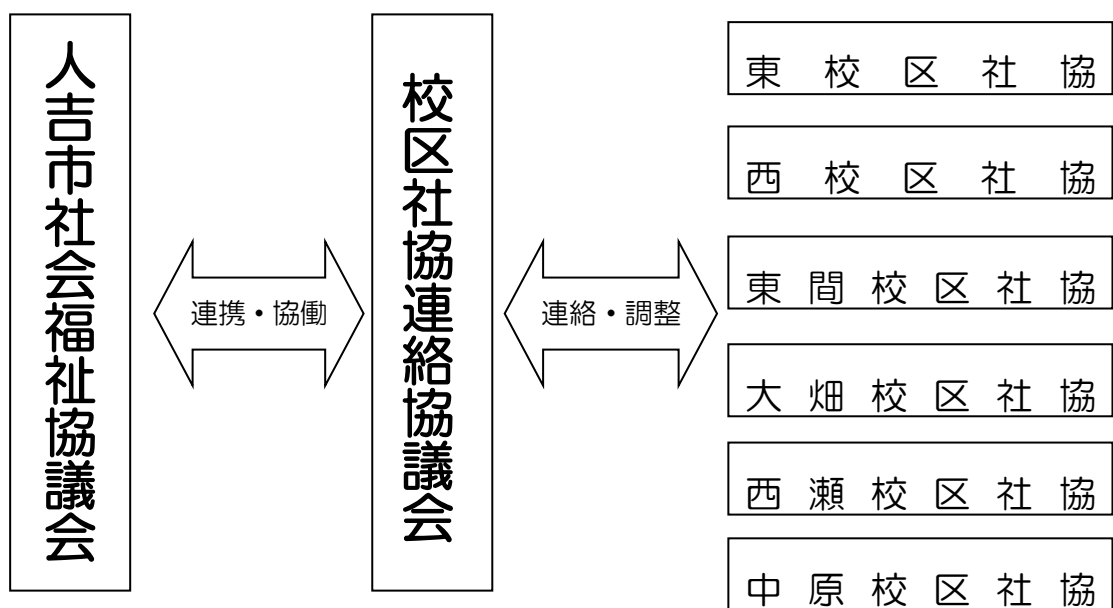
第5章 校区社会福祉協議会活動計画

1 校区社会福祉協議会とは

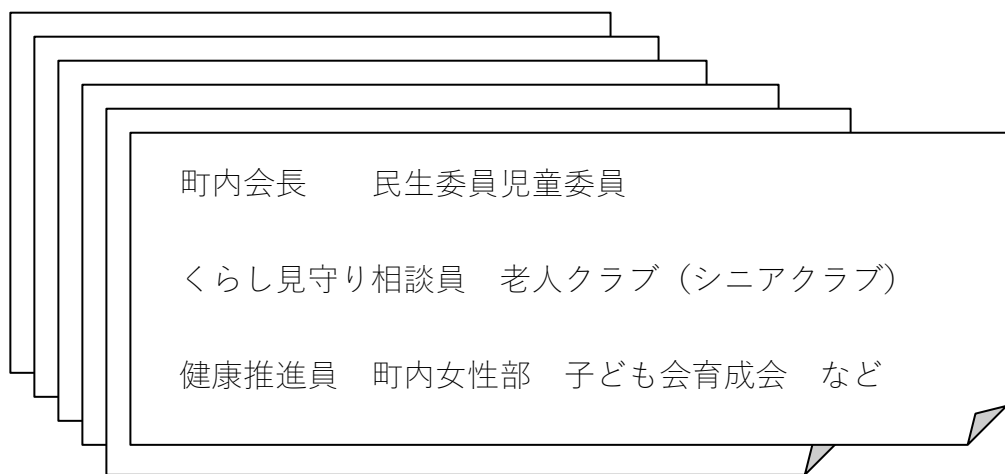
人吉市における校区社会福祉協議会（校区社協）は昭和 33 年に結成されました。各々の地域の福祉課題にいち早く取り組み、ニーズに沿ったさまざまな福祉活動を展開しています。

校区社協はそれぞれ独立した任意の団体です。市社協は各校区社協の活動を支援し、連携を図っています。

* 校区社協と市社協の関係



* 校区社協を組織している福祉関係者



第5章 校区社会福祉協議会活動計画

2 校区別活動計画



小地域ネットワーク活動とは…

各校区社会福祉協議会と町内会が中心となつて行う事業で、一人暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯、障がいのある方、子育て中の方等、日常生活に不安を持っている方が、住み慣れた地域で安心して生活を送ることができるよう、小地域（各町内）で声掛けや見守りといった、住民同士の目配り気配りのネットワーク活動を行っています。

地域で見守りが必要な方を確認する「小地域ネットワーク推進会議」を各町内で年2回開催し、見守り対象となつた方には、くらし見守り相談員が月1～2回程、対象者の自宅を訪問し、元気で生活をされているか声掛けを行っています。また、何か異変があった際には、民生委員児童委員に情報共有し、地域包括支援センターや社会福祉協議会に相談する等、連携して住民同士の信頼の絆を育んでいます。

第5章 校区社会福祉協議会活動計画

東校区



校区内の基本情報

◆人口	8,459 人
◆世帯数	4,060 世帯
◆町内会数	18
◆高齢者人口(65 歳以上)	2,792 人
◆高齢化率	33.0 %
◆年少人口(15 歳未満)	1,189 人
◆年少人口率	14.1 %
◆生産年齢人口 (15 ~ 64 歳)	4,478 人

【H31.3.31 現在 住民基本台帳より】

基本目標

声掛け・見守り・向こう三軒両隣、地域の福祉力を高め、
安心して暮らせる地域づくり

基本計画

	実施する事業	実施年度	具体的な取り組み
1	小地域 ネットワーク事業	継続	- 各町内年2回の定期開催を推進する。 - 基本事業としての理解を深め、実のある事業展開を行う。 - 日常、非日常、災害時に生きる事業として展開できる事業とする。
2	ミニサロン事業	継続	全町内での実施を基本とする。
3	地域サロン推進事業	新規	現サロン活動の紹介ならびに新規サロン開設への支援
4	人吉市生活支援 体制整備関連事業	新規	従来実施してきた「日常生活協力援助（表彰）事業」をベースに生活支援体制整備事業推進の中核事業としての構築を助長する。

◎校区社協だよりの発行 ◎校区社協研修開催

第5章 校区社会福祉協議会活動計画

西校区



校区内の基本情報

◆人口	5,521 人
◆世帯数	2,846 世帯
◆町内会数	9
◆高齢者人口(65 歳以上)	2,104 人
◆高齢化率	38.1%
◆年少人口(15 歳未満)	628 人
◆年少人口率	11.4%
◆生産年齢人口 (15～64歳)	2,789 人

【H31.3.31 現在 住民基本台帳より】

基本目標

思いやり・支え合いの町づくり

基本計画

	実施する事業	実施年度	具体的な取り組み
1	小地域ネットワーク事業	継続	・情報交換、情報共有の徹底による充実を図る。 ・町内単位の福祉推進会議の活用による円滑な事業運営に資する。
2	ミニサロン事業	継続	・全町内、年2回実施を前提に推進する。 ・内容（特に、食の提供）の創意工夫による魅力ある事業を助長する。
3	世代間交流事業	継続	・西小学校5学年との定期事業としてのグラウンドゴルフ交流会を開催する。 ・校区公民館との共催による親子ふれあいグラウンドゴルフ大会を開催し各町内の幅広い年齢層との交流を図る。
4	子育て支援事業	継続	・ニコニシ食堂（子ども食堂）は、コミセンを核に月1回の開催を基本に、各町内への出前食堂を設け活動を促進する。 ・支援スタッフの安定確保と、事業の周知、啓発に努め事業の充実、定着を図る。
5	地域ふれあい福祉事業	継続	・各町内の特色を生かした取り組みに対する分配金制度を設け、独自性を持つ福祉事業の展開を後押し、促進する。
6	人吉市生活支援体制整備関連事業	新規	・活動拠点「ニコニシ支え合いセンター」の幅広い機能（多様な場面）の充実を目指す。 ・ニコニシカフェの併設（拠り所）各種団体等の会合、交流の場。

◎校区社協だよりの発行 ◎校区社協研修開催

第5章 校区社会福祉協議会活動計画

＜生活支援体制整備事業に係る地区別座談会で提起された意見～＞

西校区



【テーマ1】
「近年における自分の地域の
環境変化(地域課題)」

▲まとめの発表

- ・住宅の様相が変わり住人の顔が見えなくなった。
- ・住民同士の接点がなくなった（住民意識の希薄化）。
- ・老々介護の現状を実感（街中には若い者がいない）。
- ・町内の権威者（リーダー）の存在が薄くなった。
- ・空き家の急増（環境の悪化、危険家屋への移行）。
- ・高齢世帯の増加とともに各役員自体の高齢化。
- ・野生動物（鹿、イノシシ）の集落内への出没。
- ・集合住宅入居世帯の増と町内会離れ。
- ・町内行事等の社会参加の低下（若い世代の世帯）。
- ・団地入居者の高齢化の進展（高層階不自由の現実）。
- ・生活に必要な主要商業店舗がなくなった（閉鎖）。

【テーマ2】
「自分が住む町内の強み
(自慢できるもの)」

▲グループワーク

- ・老人クラブ活動が活発（魅力ある活動内容の実施）。
- ・商店、病院等が近く、利便性が高く住みよい環境。
- ・近隣町内が一緒に活動（行動範囲、交流のが広がり）。
- ・町民の連携、まとまりが強い。
- ・自然、文化に特筆するものがある。
- ・女性が強い（活力、行動力に突出）。
- ・グラウンドゴルフを土台とする老人クラブ活動が充実。
- ・近所同士のつながりが健在（仲がよい）。
- ・格安の人気弁当屋がある（高齢者の食確保）。
- ・自助力の積極的発揮、意識の高さが土壌にある。

次ページへ続く



▲グループワーク

【テーマ3】
「今、行われている助け合い・支え合い(地域資源)」

- ・ 各々の地元商店の配達サービスが充実。
- ・ 隣近所の声掛けがあり、同乗による外出。
- ・ ゴミ出しの手伝い(但し、善意の一步通行は厳禁)。
- ・ 自然発生(暗黙のルール)による適宜なケースの送迎。
- ・ デイ、ミニ、地域の各サロンへの積極的参加(増加)。
- ・ 避難所(避難者)への手料理持ち寄り(提供)の習慣。
- ・ ゴミ集積所周囲の清掃、草刈り(ポイ捨ての防止)。
- ・ 年度初めに対象者を決めての見守り(日常の声掛け)。
- ・ 介護ヘルパーとの緊密連携による手助けの役割分担。
- ・ 老人会会報配布時に困りごと等を確認し適宜対応。
- ・ 町内会主導によるミニサロン時のタクシー送迎対応。

【テーマ4】
「町内にある困りごと、将来あったら助かると思うこと」

- ・ サロン等の参加者に偏りがある(男性の引きこもり)。
- ・ サロン等世話役(人材)の減少(年々確保難が進行)。
- ・ ゴミ集積所の不足(分散型の設置ができないか)。
- ・ 買い物や病院受診時の不便性(移動手段の確保難)。
- ・ 高齢者による自転車でのゴミ出し(危険と同居)。
- ・ ゴミ出しのルール違反(外国人在住者の理解不足)。
- ・ 災害時の対応法の確立(住民間の認識の徹底と共有)。
- ・ 移動販売の充実(自分で見て、触れて買いたい)。
- ・ 町内個別の活動には限界(町内間合同の体制強化)。
- ・ ドア to ドアの乗り合いタクシーの運行(移動手段確保)。
- ・ 移動販売車の充実(現行サービスの拡大)。
- ・ 引きこもり者に対する絶対的外出機会の設定。
- ・ 見守り対象者等の情報提供と共有体制の確立。
- ・ 憩いの場(特に子どもの遊び場)整備が不可欠。

西校区



『各テーマを踏まえた、
各町内のまちづくりキーワード』

- * 福祉・支え合いは、子どもたちからつなぐ
- * 持てる力の発揮と、町内同士の相互協力
- * 担い手(後継者)の確保による地域づくりの継承
- * 団結力の継承、今していることを続け新しいことに取り組む
- * 世代交代「若い世代に背中を見せる元気なシニア」
- * 助け合いは、近隣住民が仲良く・見守るが基本
- * 自助を尊重し、後方支援(声かけ・見守り)の体制が基本
- * 基本は自助、通常生活の中に互助がある
- * 気軽に集える憩いの場を創ろう！

まとめ
(事業着手のポイント)

第5章 校区社会福祉協議会活動計画

東間校区



校区内の基本情報

◆人口	5,722 人
◆世帯数	2,747 世帯
◆町内会数	17
◆高齢者人口(65 歳以上)	1,990 人
◆高齢化率	34.8%
◆年少人口(15 歳未満)	735 人
◆年少人口率	12.8%
◆生産年齢人口 (15～64 歳)	2,997 人

【H31.3.31 現在 住民基本台帳より】

基本目標

安心・安全のふれあいの町づくり事業の充実、推進を図る

基本計画

	実施する事業	実施年度	具体的な取り組み
1	小地域 ネットワーク事業	継続	- 全町内年2回の開催ができる支援体制の強化に努める。 - 災害時等に機能する、強い体制づくりに向けメンバーの意識高揚、行動につながる認識共有の場として設定する。
2	ミニサロン事業	継続	- 定着化した事業として創意工夫によるさらなる高み(充実)を目指す。 - 各町内の担い手(後継人材)養成、確保を図る研修会等を開催する。
3	老人給食 ボランティア事業	継続	- 支援人材の高齢化対策が急務であり、後継者の計画的確保を進める。 - 季節感あふれる弁当メニューによる魅力ある喜びの提供に努める。
4	子ども育成事業	継続	- 町内活性化のための自主活動を応援(1万円助成)するもので、全町に波及するよう周知、啓発を図る。 - 世代間交流及び地域行事継承等の機会確保の場面づくりとして推奨する
5	子育て支援事業	継続	暦年における出生児へのお祝い(商品券贈呈)をとおり、地域での子育て環境の整備、住民意識の高揚に資する。
6	人吉市生活支援 体制整備関連事業	新規	- 地域の地形的特色に鑑み、町内単位の取組みを基本とした推進を考える (主要方向) ①地域力を生かしたモデル町内設定による独自内容での先行実施 ②山間地を視野に入れた外出(移動)支援サービスの整備

◎校区社協だよりの発行 ◎校区社協研修開催

第5章 校区社会福祉協議会活動計画

大畑校区



校区内の基本情報

- ◆人口 1,588 人
- ◆世帯数 741 世帯
- ◆町内会数 11
- ◆高齢者人口(65 歳以上) 706 人
- ◆高齢化率 44.5%
- ◆年少人口(15 歳未満) 140 人
- ◆年少人口率 8.8%
- ◆生産年齢人口 742 人
(15～64 歳)

【H31.3.31 現在 住民基本台帳より】

基本目標

支え合い (To support) 助け合う (To help) 心つながるまち
～ 明るいあいさつから ～

基本計画

	実施する事業	実施年度	具体的な取り組み
1	小地域ネットワーク事業	継続	・推進会議の全町内年2回開催を継続し、健全な町内会活動につなげるため町内行事として位置づける。 ・地域福祉を担うための情報交換、共有の場としての活動を充実する。 ・基本目標推進の中核となる気運醸成を図り、実践者としての役割を担えるよう努める。
2	ミニサロン事業	継続	・全町内、年2回開催による町内の活性化を促す。 ・対象者、主催者双方への啓発と支援の拡充を行う。 ・対象者の高年齢化による体力等に配慮した内容に工夫し活動の充実を図る。 ・参加者の会場への送迎問題解決に向け検証する。
3	世代間交流事業	継続	・各町内一つの住民交流の取組みとして、地域の伝統行事の掘り起こし、子どもを含めた工夫ある独自活動等の推進を促す。 ・七夕づくり、どんど焼き、神社祭り、親子グラウンドゴルフ、親子ウォーキング、一斉清掃・環境美化、お年玉宝探し等
4	災害時緊急対応計画作成支援事業	見直し	・緊急時、災害時の対応について平素から明確な周知、啓発を行う。 ・状況把握と情報発信の手順、要援護者等と支援者の確認、避難経路と避難所確認等について地域住民が共有 ・毎年、定期的確認、見直しによる周知徹底及び訓練の場の設定を行い、活動計画の作成につなげる。
5	人吉市生活支援体制整備関連事業	新規	・生活支援体制整備事業との一体的事業と位置づけ、小地域ネットワーク推進会議を土台に「町内支え合い推進委員会」を置き、福祉活動の拡充を図るため「協議体」と連携し活動を支援、円滑な推進に努める。 ・各地縁団体の役員交代後も1年間には推進員として共に活動し、役員の負担軽減(安心感)を図り、スムーズな役員交代、事業遂行につなげる。 ・全世帯実施の住民アンケート調査結果を踏まえ、今後の取り組みの道筋を決め計画的実施につなげる。

◎校区社協だよりの発行 ◎校区社協研修開催

第5章 校区社会福祉協議会活動計画

<生活支援体制整備事業に係る地区別座談会で提起された意見～>

大畑校区



【テーマ1】
「今、思われる困りごと等について」

▲漆田地区



【テーマ2】
「今、行われている手助け等の状況について」

▲矢岳地区

- ・地形的に坂道が多く、身近なサロン等への参加にも苦慮する。
- ・買い物や病院通院の際の交通（移動）手段がない。※距離的なリスクがある上、その思いは年々深刻。
- ・住民の地域活動に対する認識の希薄化が、役員交代等を一層難しくする。
- ・個別の課題に、食事確保の不安、農地の管理が困難、乗合バスの予約が困難
- ・他に、運転免許証返納に悩む、地域の活動者はいつも同じ人などがあった。



大畑地区



全地区報告会

【テーマ2】から、「将来、必要とされる（期待する）手助け等の状況について」

- ・近隣の絆、つながりが強く軽易な手伝い（ゴミ出し、草刈り、電球交換等々）は自然発生的に行われている。
- ・町内の組織等による活動（共同作業）が適宜に行われる。※生活道路の草刈り、支障樹木等の伐採・撤去、空き家・荒廃地の保全など。

- ・乗り合いバス等のきめ細かな充実運行につながる公共交通の整備、導入。
- ・担い手等の後継人材確保のために、若い世代の意見、情報収集が肝要。
- ・町内間での送迎サービス（サロン参加時等）の確立。

【テーマ1】から、「将来、思われる困りごと等について」

- ・買い物や病院受診時等の移動手段確保の重要性が一層問われる。
- ・少子高齢化の益々の進行により役員等人材の絶対数不足が生じる。

校区の特色に市街地から離れた中山間地に位置し、高齢化率が最も高い地域であり、全域に共通することとして、日常生活に欠かせない「買い物や通院時等の移動手段の確保」に関する不安、つまり外出（送迎）支援の充実、整備が喫緊の課題として現に見受けられる。また、そのことは町内間の立地位置や生活環境によって様々に異なることから、よりその町内にマッチした体制の整備が求められることになる。

まとめ

（今後の展開に優先すべき事項として考えること）



ニーズ
**地域づくりの情報は地域にある。
まずは地域住民の声を聴くことから！**

- ※住民個々のニーズを把握し、校区が目指す方向を探るための意見・情報収集の手段として校区全世帯を対象とした住民アンケート調査が有効と考える。

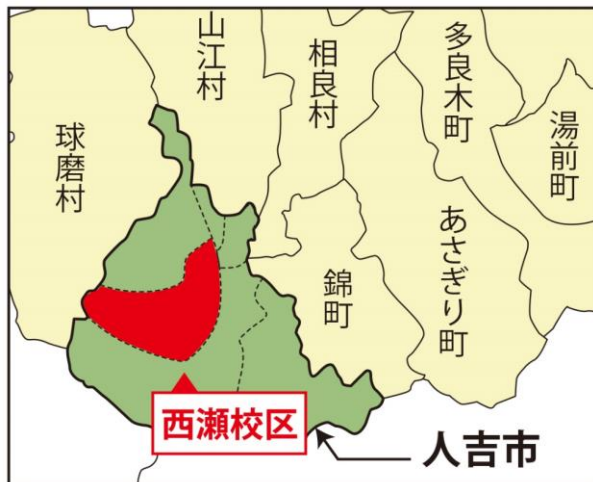


**事業推進の軸は町内会にある。
そのための将来につながる町内の組織体制づくりから！**

- ※町内の共通課題に、地域の現状を反映した「何の役員にしても人がいない・なり手がない」の声が上がった。そこに役員交代の円滑化、先につながる町内会の基盤強化が窺える。

第5章 校区社会福祉協議会活動計画

西瀬校区



校区内の基本情報

◆人口	4,751 人
◆世帯数	2,258 世帯
◆町内会数	11
◆高齢者人口(65 歳以上)	1,728 人
◆高齢化率	36,4%
◆年少人口(15 歳未満)	577 人
◆年少人口率	12,1%
◆生産年齢人口 (15～64 歳)	2,446 人

【H31.3.31 現在 住民基本台帳より】

基本目標

地域の助け合い支え合いを深めて、より豊かな福祉のまちづくりを目指す

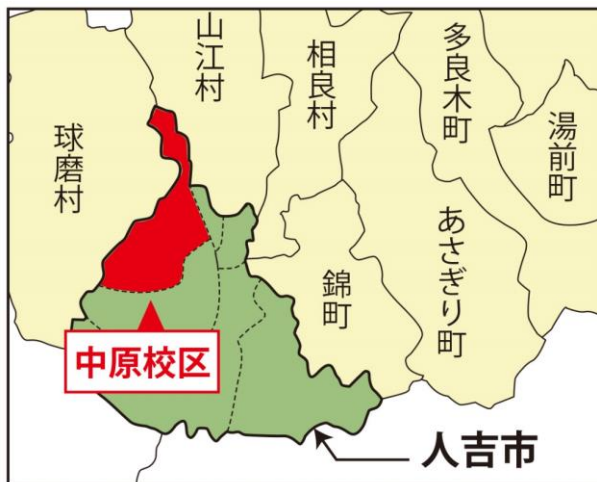
基本計画

	実施する事業	実施年度	具体的な取り組み
1	小地域ネットワーク事業	継続	- 小地域ネットワーク推進会議において、見守り対象者の明確な把握情報の確認、共有の徹底を図る。 - 地域福祉担い手育成の場として、福祉、生活、防災等々に関する出前講座を活用し知識の習得、幅広い視野を養うことで後継人材の発掘につなげる。
2	ミニサロン事業	継続	- 健康重視の活動内容を基本に、生きがい及び楽しみの場としての娯楽提供も含めマンネリ化のない工夫ある充実に努める。 - 会場まで足を運ばない対象者増への対応についてネットワーク会議と連携を図る。
3	地域町内の世代間交流事業	継続	- 地域の文化（神社の大祭、夏祭り、どんどや等）として継承された活動への積極的参加を促しタイアップ事業としての後押しを図る。 - 町内単位で開催されるグラウンドゴルフ大会やウォーキングへの参加機会を促進する。
4	子どもの見守り事業	継続	見守り員（協力者）の高齢化による後継人材の発掘、確保を支援する。
5	人吉市生活支援体制整備関連事業	新規	- 住民座談会の開催により事業推進の方向を定めていく。 - 地域サロンに代表される「場づくり」を基本に、校区の地域づくりの普及啓発を目指す。

◎校区社協だよりの発行 ◎校区社協研修開催

第5章 校区社会福祉協議会活動計画

中原校区



校区内の基本情報	
◆人口	6,268 人
◆世帯数	2,842 世帯
◆町内会数	25
◆高齢者人口(65 歳以上)	2,245 人
◆高齢化率	35.8%
◆年少人口(15 歳未満)	780 人
◆年少人口率	12.4%
◆生産年齢人口 (15～64 歳)	3,243 人
【H31.3.31 現在 住民基本台帳より】	

基本目標

地域の助け合い・支え合い・仲間づくりの町「なかはら」

基本計画

	実施する事業	実施年度	具体的な取り組み
1	小地域ネットワーク事業	継続	・ネットワーク会議を各町内の年間行事に位置付けた推進を図る。 ・見守り活動の充実が図られるよう積極的支援に努める。 ・会議における守秘義務の在り方、取り扱いについての総体的な理解、共有を図る。
2	ミニサロン事業	継続	・各町内間の課題を共有し解決につながる率先的役割を担い内容の充実を図る。 ・実施者（主催）の企画・運営の支援に努める。
3	老人給食ボランティア事業	継続	・従事者と校区社協役員との定例会を実施し内容の充実、事業の発展的展開を促進する。 〔要綱の適宜整備、月2回開催の課題解決、ミニサロン事業との連携など〕
4	世代間交流事業	継続	・各町内へ活動助成金を設けることで事業の啓発内容の充実を促進する。 ・なかよしランチの内容充実、運営の定着化に向け運営費の助成を行う。
5	なかはら福祉祭り事業（支え合い福祉祭り）	継続	・今後の校区地域福祉の軸を担う新たな事業と位置付け、各種団体等との連携を深め一体的開催に努める。 〔中原校区のシンボルの機能を担う「地域の支え合いによる総合交流の場」〕
6	人吉市生活支援体制整備関連事業	新規	・なかはら生活支援協議会（支え合い部会）との一体的取り組み（地域福祉推進）による地域住民とのつなぎ役としての地域情報の提供、共有を図る。 ・なかはら生活応援団による支え合い活動を基幹事業とする充実を図るため積極的に支援する。

◎校区社協だよりの発行 ◎校区社協研修開催

第5章 校区社会福祉協議会活動計画

＜生活支援体制整備事業に係る地区別座談会で提起された意見～＞

中原校区

【テーマ1】
「地域にある支え合い等の、
今、あるもの、できているものについて」

- ・ 隣保班長の活動の中でゴミの分別、ごみ出しが行われている。
- ・ 移動販売車のサービスが充実している。
- ・ 校区ボランティア給食が積極的に利用されている。
- ・ 豆バスの運行（2路線）が校区全体をカバーしている。
- ・ 老人クラブの活動が盛んで楽しみ、生きがいの場となっている。
- ・ デイサロン、ミニサロン活動に元気があり盛んに開催されている。
- ・ 地域（自主活動）サロンの活動が盛んで校区（地域）の活性化になっている。
- ・ 公民館活動が活発に行われ、特にコミセン講座が充実している。
- ・ 共同の清掃作業時に弱者世帯の生活環境整備を支援している。
- ・ 個別の課題に、食事確保の不安、農地の管理が困難、乗合バスの予約が困難。運転免許証返納に悩む、地域の活動者はいつも同じ人等々があった。

【テーマ1】から、「地域の困りごとや課題と気づいたこと、思うことについて」

- ・ 老人クラブの休止や廃止の流れにあるのが寂しい。
- ・ 地域の社会参加機会等への出席者の顔ぶれがいつも同じ人である。
- ・ 地域行事（夏祭り、共同作業など）の衰退により世代間交流機会が減少する。
- ・ 現役世代（地域づくりの中心的担い手人材）の高齢化が深刻な状況にある。
- ・ 免許証返納に該当するケースがあるも実行に踏み切れない状況がうかがえる。



▲校区全体会

【テーマ2】
「地域の将来（5・10年後）に、必要（あったら良い）と思う支え合い等について」

- ・ 地域の担い手（リーダー的人材）の引継ぎ（後継者確保）が第一。
- ・ 一人暮らし世帯の不安解消、特に夜間の支援体制強化。
※緊急時、災害時の支援（見守り、通報体制）の整備。
- ・ 独居の男性世帯に対する食の安定、提供体制の充実。
- ・ 老人クラブの再編による活動の充実（生きがいづくりの場）が必要。
- ・ 空き家や荒廃地の増加による生活環境、景観の保全策の措置。
- ・ 地域に存在する温泉資源の有効活用法による健康づくりの提供。
- ・ 校区社協と校区公民館活動の強力連携を生かした地域づくりの実践。
- ・ 各種サロン活動の一層の充実とより身近な地域での開催（設置個所の増大）。
- ・ 社会福祉法人施設や老人福祉センターとの連携による地域活性化策の導入。

次ページへ続く

第5章 校区社会福祉協議会活動計画



▲中神地区



▲林・温泉地区

【その他（アンケートの感想）】

- ・座談会に参加して、地域のさまざまなことを知る機会（勉強）になった。気づきの場となり真剣に考える時間を過ごした。単純に解決するものではなく話し合うことの大切さを学んだ。これで終わりではなく知識、情報を共有し継続開催することに意義がある。等多くの意見が出された。
- ・事業の細部に及ぶ理解（周知）や情報収集の手段として、デイサロンやミニサロン等の機会を捉えての有効活用がある。
- ・幅広い世代からの多様な意見、情報が重要で、その機会（場）の設定が必要、また町内間住民の共通認識が大切である。



▲上・下原田地区

まとめ (事業着手のポイント)

支え合いの受援者(利用者)の状況把握

- ① 校区全域を対象に日常生活困りごと等の利用者及びその支援ニーズについての実態把握「民生委員児童委員との連携、協力による個別訪問アンケート調査を実施」
- ② デイサロン会場に出向き、利用者に対する個別の意向調査の実施

支え合いの支援者(担い手)の状況把握

- ① 校区全住民を対象に支援者及び支援可能内容等についての実態把握